

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年七月度 入選句 (投稿総数三千五百三十句・小中学投句数二千八百二十三句)

特選

風薫る草のかおりがここちよい 美濃加茂市 深澤 幸也(中一)

俳句は五感(目耳鼻舌皮膚)で味わう文学です。普通目で見たり耳で聞いたりして句作するのが大半で、草のかおりを嗅ぎ身体全体で「こちよい」と表現することは稀です。又季語の風薫るが良く効いています。

ねこのけがぬけたらすぐになつがくる 大垣市 山田 もえ(小三)

我家にも猫がいます。名前はミーと言います。現在八才ぐらい、家に迷い込みそのままだと二〜三日で死ぬと思ひ飼う事にしました。この句の良さはほんとうに猫をよく観察しています。猫は普通三〜六キログラム冬になる前にたくさん食べて体重が一〜一・五キログラム増えます。夏は毛が抜け体重は減少します。句全体に猫に対する愛情が一杯です。

くものいとあめがふるとほうせきだ 大垣市 村岡 莉亜(小一)

くもは先ず縦糸で下に降り、次々と横糸を張り巣を作つてゆく。御存知だと思ひますが、横糸は粘着性があり、虫を捕獲できますが縦糸は引つ付きません。巣に雨のしずくがついてキラキラと光っています。本当に宝石のように美しいです。又あめがやんで、しばらくして少し陽の光も見えてきます。旨く時の流れも感じさせます。

秀逸

ねる前のカエルの声がこもり歌 大垣市 林 大翔(小三)

雨上がり石の上にはかたつむり 大垣市 石川 愛留(小三)

土ようびにかぞくみんなではかまいり 大垣市 吉川 宗李(小二)

はるのみちびかびかひかるランドセル 大垣市 渡邊 咲菜(小一)

すいえいでぐるぐるまわるせんたくき 大垣市 ひびの ゆな(小二)

口の中ふわりととろけるわらびもち 美濃加茂市 渡邊 希水(中一)

水草の中にかくれる熱帯魚 大垣市 廣畑 裕美子(小四)

ママみててきんきよみたにおよぐから 大垣市 梅田 れあ(小三)

花火さく夜空一面花畑 大垣市 大橋 美空(小四)

七夕は一つのこいの物語 大垣市 加藤 唯那(小四)

入選

田植えするかえるの合しよう始まりだ 大垣市 河本 りようが(小四)
 ははのひはかたをもみもみたのしいな 大垣市 坂下 璃 亜(小二)
 かたつむりぺつとにしているぼくの家 大垣市 はやざき ひろと(小二)
 かえりみちみあげたそらににゆうどうぐも 大垣市 花澤 奏 太(小二)
 つゆのひのながぐつとかさうれしそう 大垣市 小山 昊 太(小二)
 つゆのあめカラフルなかさおどってる 大垣市 田川 彩 葉(小二)
 あげはちようプールにいくときであったよ 大垣市 子安 裕 恒(小二)
 帰宅して一息つくとソーダ水 美濃加茂市 豊福 心 渚(中二)
 せんこうの花火で対決する子ども 美濃加茂市 中島 柚 葉(中二)
 トマトとね自分の顔とくらべっこ 大垣市 高橋 凧 咲(小三)

入選

夏の川真っ赤にうつるわたり橋 大垣市 山 田 愛 華(小六)
 川灯台青葉にかくれてれている 大垣市 大村 咲 季(小六)
 前みると遠くに続くなつこだち 大垣市 桐山 美 里(小六)
 かたつむり屋台をしょってどこ行くの 大垣市 辻 里 菜(小六)
 本日の麦茶の味は母の味 大垣市 今 勇 絆(小六)
 サングラスかけてすなはまねころがる 大垣市 村上 修 斗(小四)
 月のかささしてわたろう天の川 大垣市 高橋 美 紀(小四)
 ホウセンカはながさいたらかんさつだ 大垣市 佐藤 世 菜(小三)
 夏の星線でむすんではくちようざ 大垣市 松原 大 悟(小四)
 雨がやみじめじめあつい小暑かな 大垣市 松岡 拓 輝(小六)

選者吟

おもしろき人の世を生きかたつむり